

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	13-116	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol-related mortality in deprived UK cities: worrying trends in young women challenge recent national downward trends. 英国貧困都市における飲酒関連死亡 ～国全体としての低下傾向に正対する若年女性の憂慮すべき傾向～		
執筆者		
Shipton D, Whyte B, Walsh D.		
掲載誌		
J Epidemiol Community Health. 2013 Oct;67(10):805-12. doi: 10.1136/jech-2013-202574.		
キーワード		PMID
飲酒関連死亡、貧困、英国、若年女性		23868526
要 旨		
目的： スコットランドの最大都市グラスゴーは、他のヨーロッパ地域と比較して貧困が多く、健康水準は低値である。この健康水準の低さは貧困割合の高さだけでは十分に説明できない。同市における青少年の高過ぎる死亡率は、その大部分が飲酒、薬物、自殺および暴力によるものである。		
方法： 本研究ではグラスゴー、および同様に貧困層の多い英国のマンチェスター、リバプール両市における飲酒関連死亡率について調査を実施し都市間の比較を行った。1980年から2011年にかけて、上記3市における飲酒関連の死亡率を調査した。		
結果： 1980年代、グラスゴーにおける飲酒関連死亡率は、マンチェスターおよびリバプールの3倍高値であった。3市ともその後30年間で飲酒関連死亡率が増加しているが、とりわけグラスゴーにおける1990年代初頭の死亡数増加が顕著であった。近年、飲酒関連死亡率は緩やかな減少傾向をみせているが、若年女性(1970年代生まれ)については全ての都市において上昇傾向がみられた。		
結論： 英国若年女性における飲酒関連死亡が将来的に減少していくならば、本研究で得られた知見が好影響をもたらしたと考えられる。		